

※ベルが鳴る。

(議長)

ただいまの出席議員数は12名です。

定足数に達しておりますので会議は成立致しました。ただ今から、令和8年第2回江差町議会定例会を開会致します。

(議長)

本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の通りです。

(議長)

日程第1、会議録署名議員を指名致します。

会議録署名議員は、会議規則第129条の規定により、5番、西海谷議員、6番、小梅議員を指名致します。

(議長)

日程第2、会期の決定を議題と致します。

今定例会の会期及び議会運営については、所管の議会運営委員会に付託されておりますので、委員長の報告を求めます。

「小野寺委員長」

議長。

(議長)

小野寺委員長。

「小野寺委員長」(報告)

おはようございます。(「おはようございます」の声。)

議会運営委員会の報告を致します。

委員会の開催状況であります。議会運営委員会では5月27日及び6月5日の2日間、委員会を開催し、町理事者の出席を求め、今定例会に提出される議案内容の説明を受けるなど、日程及び運営について協議を致しました。

今定例会の議案、一般質問等についてであります。今定例会には各会計補正予算など6件の議案が提出されているほか、報告6件、議員発議で意見書5件、同じく議員発議で、委員会の事務調査2件、一般質問は7名の通告であります。

詳細につきましては、お手元に配付しております報告書の通りでございます。

会期の日程について、会期の日程については、本日6月15日の1日間とすることと致

します。

一般質問等についてであります。これまでの定例会と同様と致します。町理事者の反問権については従来通りでございます。

以上、議会運営委員会において協議した結果を報告致します。

(議長)

以上で報告が終わりました。

(議長)

お諮りします。

今定例会の会期及び議会運営については、委員長報告の通りにしたいと思いますがご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。よって今定例会の会期については、本日1日と致します。

一般質問については、一問一答方式とし、議員の質問は自席で行うものとし、理事者側の答弁は、1回目は演壇で、2回目以降は自席で行うことと致します。

質問の回数は再々質問まで、答弁を含め60分の時間制を採用して行うことと致します。

また、理事者においては、議員からの質問に対して議長の許可を得て反問出来る事とし、それに要する時間は60分の、す、制限時間外とすることに決定致しました。

また、議場内の換気のため、出入口ドアを開口しますので、ご協力をお願い致します。

(議長)

次に議長からの諸般の報告を致します。

報告内容はお手元に配付の通りです。ご了承願います。

(議長)

日程第3、しょかつ(正：所管)事務調査の報告について、社会文教常任委員会に、ふ、付託されております、令和7年第6回臨時会発委第1号、江差町における高等学校のあり方に関する事務調査を議題と致します。

(議長)

本案について、委員長の報告を、のと、めます。(正：求めます)

(議長)

出崎委員長。

「出崎委員長」（報告）

おはようございます。（「おはようございます」の声）

え一本委員会に付託の調査事件について、会議規則第78条の規定により、え一下記の通り報告します。

1. 調査事件。令和7年第6回臨時会ほ、ほつ、発意第1号、江差町における高等学校のあり方に関する事務調査。

2. 調査期日及び内容。えーこれについては、えー令和7年7月24日から10ページ、令和8年、えー6月3日まで、えー学校教育課、中学校、高校に、えーヒアリングを実施しました。

えー3. 調査の目的。えー高等学校を巡っては、少子化の波を受けて子供たちが減少しており、生徒の確保が課題となっている。今年度から施行となった、えー高校授業料無償化、が、地域、えー地域外流出に更に拍車をかけ、かけるのではないかと懸念されるところであり、当町の江差高等学校においても、その影響は避けられない状況である。

地域において、高校の存続は子供たちの教育の問題だけでなく、将来の町作りにおける、えー根幹的な施設であるとの認識のもと、今、必要な対策を講じなければならない。

当委員会では、高等学校を巡る現状を把握し、学校の存続維持のために町として取り組むべき課題について調査することとしました。

4. ヒアリングの概要。えーヒアリングにつきましては、し、進学先決定の実態及び志望先を江差高校とするために何を望むかとの観点から実施しましたが、えーその結果については、えー5の、あー、8ページの5の調査結果に、えーまとめましたので、そこまでお進み願います。8ページ、まで。

えー、8ページの5、調査結果から、えー進みたいと思います。

えー中学校卒業者の進学先決定の状況。中学校においては三者面談等で、前年11月頃から具体的な進学先決定に動き始める。進学先は以下の点などを勘案して決定されている。志望先高校に入学するための学力、通学するための経済力。高校が大学進学や就職に関して有利な取り組みをしているかどうか。高校が地域社会や国際交流の学外にひら、開かれた活動をしているかどうか。希望するクラブ活動が出来るかどうか。進学や漢検・英検等の検定、学校行事などに対する自治体等からの助成の有無。いじめや不登校、支援が必要な生徒に対する高校での対応。

えー次に、えー私立を含む高校授業料の無償化は、えー、し、志望校の選択肢が増えるということで、親元にとっては朗報であるが、地元公立高校への進学にとってはマイナスになっております。

えー、また中学校から進学先高校に望むこととして、えー学校説明会実施の継続、学校見学会の実施、これらが望まれております。

えー（2）、江差高校の現状と、入学者増のための取り組み、え、現状について。上ノ国高校の協力校となっており美術教員を派遣しているが、1年生が35人になると、ひ、1クラスになってしまい、上ノ国高校と変わらなくなってしまう。何とか41名の入学者を確保して2クラス制を維持したい。江差高校は桧山管内の中心連絡校であり、進路の実現をする責任を負っている。またクラブ活動は、野球、バスケ、バレー、サッカー等を残しているが、連合チームとなっている。以上が現状であります。

えー次に、高校での取り組み状況。えー特色ある単位制の選択科目として、江差追分があり、地域の方と連携して探究学習、南ひやま学を行っている。入学者を増やすために、えー以下のような新たな取り組みを行い、各中学校の2年生から説明し、えー生徒集めに努めたいと思っている。

えー一つは、就職及び文系、理系、難関大学進学に対応するため、カリキュラムに数Ⅲと物理を追加。そして受験対策として、代々木ゼミナールのサテライン授業実施を開始。えー入試で有利になる弘前大学との、えー高大連携協定を依頼。入試対策として、小樽商科大学へ小論文の添削指導を依頼して、入学を容易にするため、北海道教育大学の教員養成クラ、えープログラムに応募しています。以上の取り組みを行おうとしている状況であります。

(3)、行政又は議会に臨むこと。上ノ国高校への上ノ国町からの支援が充実しており、このままでは上ノ国高校への生徒の流れを止めることは難しい。江差高校の存続のために、江差町としても助成のあり方を検討し、協力をして、えー貫きたいとの要望を受けております。以上が、えー調査結果になります。

次に、委員会の意見として6番目。えー調査の結果、江差高等学校の存続維持のために必要なことについて、以下の意見をして報告をする。

江差高校の現状。江差高校のヒアリングにおいて、こうこくのそ、高校存続のために、2クラス制の維持が必至であると感じていた。桧山管内の中心連絡校としての役割を担う上でも、それを守らなければならない。然るに、えー入学者の減少から、今年度、江差高校は1クラスと成ってしまいました。逆に上ノ国高校は、前年16人から10人増えて26人に回復しました。上ノ国高校の取り組みは、同高及び支援する町の努力の結果である。えー管内のみならず、江差高校が子供たちに選ばれる学校となるために、今、町として何をなすべきかを考える必要がある。

(2)、魅力化、特殊化について。えー子供たちに、えら、選ばれる高校となるためには、より魅力的で特色ある学校作りが要求される。高校の魅力は、その先の大学進学や就職だけではなく、高校、えー就学期間の充実さに求められるべきであろう。入学してくる子供たちにとって、ここで過ごす3年間にどんな生活が待っているのか、そ、そこに興味を持たせるように示してあげることが大事だと思う。

特殊化についても、奇をてらったものを選択する必要はなく、地元の特色に着目し、それらの体験機会を増やすことで、子供たちの将来の進路にヒントを与えることが出来ると思う。

えー次に、町からの助成等について。えー道立高校の補助制度は、えー家庭収入等による制限が厳しいと聞いている。生徒の負担を軽減し、江差高校を選んで貰うために、町の助成の検討を要する。えー調査の中では、通学バス代、奨学金、漢検・英検などの資格取得のひけ、検定料、修学旅行の費用、クラブ・部活動の費用、昨年、ねあ、値上がりした制服やジャージの費用、下宿の費用などの項目について声が上がっており、不公平にならないように、支援のために助成を考慮すべきである。

えっ次に、クラブ活動について。クラブ活動は通常の授業とともに、高校生活での重要な位置を占める。生徒数の減少で学内のみで活動出来ない傾向にあり、あ、状況にあり、スポーツ・文化ともに他校との連携を含め、生徒のクラブ活動に積極的に、な、支援を講

じるべきである。

それから、えー支援が必要な生徒への対応。いじめや不登校への見える化対応とともに、支援が必要な生徒に対する受け入れのための特別支援クラス設置を求める声もあった。現在の江差高校の体制では、実現には困難な側面もあるが、選択肢が増え、えー入学者増のために、その可能性について考える、てみる必要がある。

えー最後に、あの一結論的なことになりますが、上記の意見を踏まえ、江差高等学校の存続維持のために、他校の取り組みを等を参考にしながら、当町の支援策を検討すべきである。以上、報告を終わります。

(議長)

以上で委員長の報告が終わりましたので質疑を許します。

質疑希望はありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望はありませんので質疑を終結致します。

(議長)

お諮りします。

本案については討論を省略し、直ちに採決したいとおも、と思いますが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め直ちに採決致します。

(議長)

江差町における学、高等学校のあり方に関する事務調査について、委員長の報告通り了承したいとおも、と思いますがご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。

よって、本案については委員長の報告通り了承することに決定致しました。

(議長)

日程第4、閉会中の継続調査の申し出についてを議題と致します。

(議長)

議会運営委員会、各常任委員会及び各特別委員会から、会議規則第76条の規定に基づき、お手元に配付の通り継続調査の申し出がありました。

(議長)

お諮りします。

各委員、ち、長からの申し出通り、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。

よって各委員長からの申し出通り、閉会中の継続調査とすることに決定致しました。